

はじめに

リアル ファンタジー フュージョン 現実と虚構を融合させる。

映画美術の神様、種田陽平が手掛ける スタジオジブリと小人たちの世界。

2010年7月17日より、スタジオジブリの新作映画『借りぐらしのアリエッティ』と同日公開される展覧会『借りぐらしのアリエッティ×種田陽平展』。

『キル・ビル Vol.1』『ザ・マジックアワー』など多数の話題作を手掛け、今最も注目される映画美術監督・種田陽平が、東京都現代美術館の1,200m²を超える展示室に『借りぐらしのアリエッティ』の巨大なセットを創ります。

種田陽平は実写映画の世界で、クエンティン・タランティーノ、三谷幸喜ら数々の監督から絶大な信頼と高い評価を受ける美術監督。何も無いスタジオの中に緻密に計算されたセットを組みあげ、独特の感性と研ぎ澄まされたセンスで仕上げを施すと、その空間は瞬時にして「異世界」の輝きを放ち始めます。それは、まさに「神業」。

通常、私たちはこの異世界を、完成した映画を通してしか観ることができません。どんなに魅力的に作られた映画のセットも、撮影終了とともに解体され、直接目にする機会ほとんどありません。

今回、宮崎駿監督が企画を練ったアリエッティの世界をスタジオジブリ・米林宏昌監督がアニメーション映画に、そして種田陽平が実写映画の技を惜しみなく注ぎ込み、現実にあるセットにします。

小人たちが生活に必要な物を人間の家から「借りてきて」「暮らしている」そして、「ひっそりと」「一所懸命に」生きる。映画に描かれた暮らしぶりが、種田陽平の手によって、展示室に出現します。魅力に溢れたその世界に直接触れ、小人になった気分で、物語の中に入り込めるまたとない機会です。

展覧会では種田陽平がこれまでに手掛けた映画美術の資料や、『借りぐらしのアリエッティ』の資料なども展示します。映画の品格を決めると言われる映画美術。その魅力を見て、触れて、「体感」する展覧会です。

現実と虚構を融合させる——。
映画美術の神様、種田陽平が手掛ける
スタジオジブリと小人たちの世界へ
ようこそ。



美術館で映画の世界を体感！

通気口を抜けると、そこは床下。秘密に満ちた小人たちの暮らしが広がります。

東京都現代美術館の展示室に入ってまず目にするのは、スタジオジブリ最新作『借りぐらしのアリエッティ』の巨大なセットです。足を一步踏み入れただけで、気分はもうアリエッティ。身長わずか10センチの小人の世界です。映画美術監督・種田陽平が手掛けた本格的なセットはディテールに溢れ、一切の妥協がありません。アリエッティの部屋、家族がくつろぐ居間と台所、父ポッドの作業部屋、そしてそれらを結ぶ迷路のような通路。背丈を越える植物や人間の家から「借りてきた」様々な道具類など、小人たちの工夫と豊かな発想をリアルに感じられる空間。たった71日間しか公開されない、現実に出現したアリエッティの世界。きっと何度でも訪れたい、何度訪れても新しい発見があるはずです。

世界が認める映画美術監督、種田陽平

『キル・ビル Vol.1』『ザ・マジックアワー』など多数の話題作で独自の世界を創り続ける映画美術監督・種田陽平。日本アカデミー賞、文化庁芸術選奨文部科学大臣賞など数々の賞を受賞し、国内外の監督から圧倒的な信頼を得る、映画ファンには「神様」と呼ばれる存在です。独特の感性と細部に至るこだわり、現実を追求しながらも巧みに虚構を融合させるそのバランス感覚が生む魅力とパワーが、アリエッティの世界に出遭ったとき、アニメーションにも実写映画にもない世界と空間が生まれます。

展覧会では巨大セットのみならず、種田陽平が過去に手掛けた作品の写真、図面、模型と言った資料と映像を通じてその魅力をお伝えします。

普段はめったに体験できない映画のセットはもちろん、その制作過程も存分にお楽しみください。

これを見ればもっと楽しめる！

スタジオジブリ最新作「借りぐらしのアリエッティ」に迫る！

『崖の上のポニョ』から2年ぶりとなるスタジオジブリの最新作。

スタジオジブリと三鷹の森ジブリ美術館の全面的な協力を得て、どこよりも早くイメージボードや美術ボードをはじめとする映画の制作資料を公開します。

現代的な物語の舞台や魅力的なキャラクターはどうやって生まれたのか？

作品に託された密やかなメッセージとは？

映画が先か、展覧会が先か……。この夏、さわやかな小人の世界に浸ってください。

美術が映画の品格を決める

スタジオジブリ・プロデューサー 鈴木敏夫

仕事柄、映画を見るとき、背景ばかり見ている。

種田陽平の名前を意識したのは、岩井俊二監督の「スワロウテイル」の美術だった。この映画に登場する「円都～イェンタウン～」という架空の街が鮮烈な印象を残した。時代は近未来の日本。アジアから、一攫千金の夢を求めて移民が移り住んでいる。近未来の日本は、こうなっているに違いない。それが本当かどうかは、むろん、怪しい。しかし、そんなことはどっちでもいい。大事なのは、現実と虚構を融合させた、それらの“作り物”を見て、観客がそう思えるかどうかだが、そう思わせるに十分余りあるセットだった。

種田陽平の傑作は枚挙に暇がないが、近年の傑作をひとつだけあげるなら「ヴィヨンの妻」だ。特に、居酒屋がよかった。

美術が映画の品格を決めると言ったのは宮崎駿だが、ぼくも、その意見に大賛成だ。宮崎アニメの素晴らしさの半分以上が、美術にあると言っても過言では無い。

この夏、ジブリの新作「借りぐらしのアリエッティ」でも、宮崎駿は新人監督への^{はなとけ}餞として、ふたつのプレゼントを用意した。ひとつは脚本。もうひとつが美術設定だ。いろいろ描いたが、床下に住む小人の部屋が特に素晴らしかった。いかにも、小人が住み着きそうな部屋だったからだ。それらを元に、種田陽平が実際に作ったらどうなるのかというのが、今回の企画の趣旨だ。

宮崎駿×種田陽平、実際の映画ではなかなか実現しない、この夢の饗宴。まずは、ぼくが大いに楽しみなのである。



展覧会に寄せて

映画美術監督 種田陽平

映画美術の仕事のおもしろさは「世界観づくり」と「セットづくり」だと思う。
『借りぐらしのアリエッティ』はその「世界観づくり」においてリアリスティックであると同時にファンタスティックだ。
そのアリエッティの世界を「三次元に、つまり現実のセットにつくりあげて展示したい」というお話を鈴木敏夫さんから頂いたとき、僕の仕事は、アニメーション映画の美術と実写映画の美術の融合だ、と理解した。

アニメーション映画でも実写映画でも、美術のつくった世界はあくまでもスクリーン上で登場人物たちとともにあり、お客さんに「観られること」で完結する。

しかし、今回の展覧会では、スタジオジブリが創造した世界をスクリーンから引き出し、実写美術の技術で建ち上げる。美術館を訪れた人に、実在の空間に迷い込み、アトモスフィアに浸ってもらえることができる。ディテールに触れ、バーチャルな世界ではなく実在する空間を楽しんでもらうことができる。

スリリングな展覧会になるぞ、と思った。

アニメーション映画と実写映画の美術、すなわち「映画のための美術」というテーマのもと、種田陽平展のパートでは、僕が関わってきた様々な実写映画の美術の仕事を展示させて頂くことになった。お客さまに「映画美術の世界」を楽しんで頂く機会を得たことは、映画美術の仕事をする者として、大変光栄なことだと思っております。

種田陽平

種田陽平 YOHEI TANEDA



記憶に残る映画の世界観創出で定評のある美術監督。武蔵野美術大学油絵科卒業。在学中に寺山修司監督作品『上海異人娼館』に参加、映画界に入る。その後、相米慎二監督作品などに美術助手として参加。1986年、石井聰互監督『ノイバウテン：半分人間』で美術監督となる。以降、『スワロウテイル』『不夜城』（1998年、香港電影金像奨最優秀美術監督賞）『キル・ビル Vol.1』（米国美術監督協会最優秀美術賞ノミネート）『THE 有頂天ホテル』『フラガール』（2005年、毎日映画コンクール美術賞）『ザ・マジックアワー』『空気人形』『ヴィヨンの妻 ～桜桃とタンポポ～』（2010年毎日映画コンクール美術賞、日本アカデミー賞最優秀美術賞）など話題作を多数手掛ける。「再現ではなく表現を、模写ではなく創造を」という取り組みが評価され、平成21年度芸術選奨文部科学大臣賞を受賞した。映画の他CM・舞台美術・映画美術展・アートブックなど幅広い分野で活動。著書に『THE HOT SET』（メディアファクトリー）、『TRIP for the FILMS』（角川書店）、自伝的絵本『どこか遠くへ』（小学館）などがある。また、2008年5月から1年間三鷹の森ジブリ美術館で展示された「小さなルーヴル美術館展」の美術監督もつとめ、2010年4月17日から10月24日までメルシャン軽井沢美術館で同展、開催中。2010年秋には映画『悪人』（李相日監督）が公開予定。

主な作品

FILM

美術監督/Production Designer作品

- 『悪人』（李相日監督）(09) ※2010 秋 公開予定
- 『空気人形』（是枝裕和監督）(08) ※2009.09.26公開
- 『ヴィヨンの妻 桜桃とタンポポ』（根岸吉太郎監督）(08)
※2009.10.10公開
※第33回日本アカデミー賞最優秀美術賞受賞
※第64回毎日映画コンクール優秀美術賞受賞
- 『アマルフィ 女神の報酬』（西谷弘監督）(08)
※2009.07.18公開
- 『昂 ースパルー』（李志毅（リー・チー・ガイ）監督）(07)
- 『ザ・マジックアワー』（三谷幸喜）(07)
※第32回日本アカデミー賞優秀美術賞受賞
※第3回アジアフィルムアワード美術監督賞ノミネート
- 『怪談』（中田秀夫監督）(06)
- 『フラガール』（李相日監督）(06)
※第30回日本アカデミー賞優秀美術賞受賞
※第61回毎日映画コンクール優秀美術賞受賞
- 『SILK』（Su-ChaoPIN監督）(05) (06・台湾公開)
- 『THE 有頂天ホテル』（三谷幸喜監督）(05)
※第30回日本アカデミー賞優秀美術賞受賞
※第61回毎日映画コンクール優秀美術賞受賞
- 『いま、会いにゆきます』（土井裕泰監督）(04)
- 『69 Sixty Nine』（李相日監督）(03)
- 『花とアリス』（岩井俊二監督）(03)
- 『イノセンス』（押井守監督）(02)
- 『KILL BILL vol.1』（クエンティン・タランティーノ監督）(02)
※米国美術監督協会最優秀美術賞ノミネート

- 『フィラメント』（辻仁成監督）(01)
- 『冷静と情熱のあいだ』（中江功監督）(01)
- 『ほとけ』（辻仁成監督）(00)
- 『死国』（長崎俊一監督）(99)
- 『千年旅人』（辻仁成監督）(99)
- 『不夜城』（李志毅（リー・チー・ガイ）監督）(98)
※第22回日本アカデミー賞優秀美術賞受賞
※第18回香港電影金像奨最優秀美術監督賞
- 『ドッグス』（長崎俊一監督）(98)
- 『香港大夜総会』（渡辺孝好監督）(97)
- 『スワロウテイル』（岩井俊二監督）(96)
※第20回日本アカデミー賞優秀美術賞受賞
- 『ロマンس』（長崎俊一監督）(95)
- 『ふ・た・り・ぼ・っ・ち』（榎戸耕史監督）(89)
- 『ノイバウテン：半分人間』（石井聰互監督）(86)

ほか多数

美術監修 他

- 『BANDAGE』（小林武史監督）(08) 美術スーパーバイザー
- 『西の魔女が死んだ』（長崎俊一監督）(08) 美術監修
- 『日本沈没』（樋口真嗣監督）(06) 美術アドバイザー
- 『夜のピクニック』（長澤雅彦監督）(06) コンセプトデザイン
- 『双生児』（塚本晋也監督）(99) 美術プロデュース
- 『スキ！』（渡邊孝好監督）(90) 劇中絵画制作
- 『稲村ジェーン』（桑田佳祐監督）(90) キャラクターデザイン





TV PROGRAM

- 『カンブリア宮殿』〈テレビ東京〉(06年より・毎週月曜22時～現在放送中)
- 『私立探偵 濱マイク』〈日本テレビ〉コンセプトチャル・デザイン (02)
- 『嫉妬の香り』〈テレビ朝日〉イメージ・デザイン (01)
- 『夫婦漫才』〈TBS〉美術プラン (01) ほか多数

COMMERCIAL FILM

パナホーム / 大塚製薬 / サントリー / SONY / 日本コカコーラ / ミスタードーナツ / NTTドコモ / コーセー
NTT西日本 / TBC / ハウス食品 / HONDA / 日清フーズ / ライオン / 任天堂 / 三菱UFJ証券 ほか多数

BOOK

- 『どこか遠くへ』〈小学館〉(09)
- 『TRIP for the FILMS』〈角川書店〉(08)
- 『THE HOT SET』〈メディアファクトリー〉(07)
- 『The Art of かまいたちの夜2 三日月島』〈チュンソフト〉(02)
- 『辻仁成+種田陽平式 映画づくりの旅』〈世界文化社〉(02)
- 『TOWN for the FILMS』〈角川書店〉(98)

EXHIBITION

- 東京都現代美術館『借りぐらしのアリエッティ×種田陽平展』(10.07.17～10.10.03展示)
- メルシャン軽井沢美術館『小さなルーヴル美術館』展 in 軽井沢 (10.04.17～10.10.24展示)
- Installation Art『TANEDA'S COOLSINGEL CUBE』in Rotterdam (10.01.26～10.06月展示)
- 三鷹の森ジブリ美術館 企画展示『小さなルーヴル美術館』展 (08.05.24より1年間展示)
- 長崎ハウステンボス『灯りのまつり ファントマティーク』(07～09毎年夏に開催中)
- 『ブラボー-SASEBOフェスティバル』(04) ※プロデュース、ロゴ・デザインほか 〈長崎県佐世保市〉
- 『イノセンス 都市の情景展 Scenery of Cities from INNOCENCE』(04) ※展示監修 〈森都市未来研究所 六本木ヒルズ〉
- 『冷静と情熱のあいだ アートビジュアル展』(01) 〈フジテレビシアターモール〉
- 写真展『つくって、撮った、偽景展』(01) 〈東京ミノルタスペース〉
- 日本建築展『Toward Totalscape』(00) ※絵画出品 〈オランダ建築博物館〉
- 映画美術展『TOWN for the FILMS-From City Into Village』(00) 〈オランダ建築博物館〉 ほか多数

STAGE

- 『二人の女兵士の物語』〈演出・坂手洋二〉(04) ※新国立劇場 小劇場(LOFT公演)
- 『お迎え準備』〈演出・斉藤久志〉(00) ※中野MOMO オープニングフェスティバル作品

OTHERS

- ゲーム・ソフト『かまいたちの夜2』美術監督
- ビデオ(美術)『中島みゆき 夜会 vol.7 vol.8』〈根岸吉太郎監督〉
- 店舗デザイン『bar LEM』 ほか多数



広報用素材

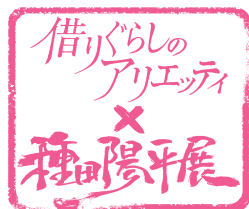
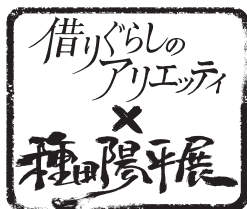
本展広報用として、下記9点の画像を用意しております。

掲載ご希望の場合は、別紙F A Xシートにて図版番号をお知らせ下さい。

タイトル

① タイトルロゴ

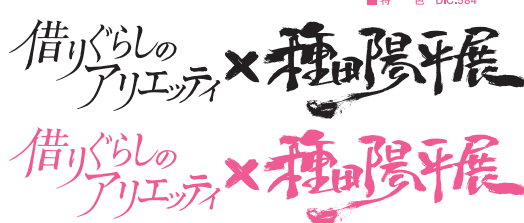
※ピンク優先でお願いします



■タイトル色 M80+Y10%
■特 色 DIC.584

② タイトルロゴ横

※①が使用出来ない場合のみ/ピンク優先



■タイトル色 M80+Y10%
■特 色 DIC.584

ビジュアル

③ メインビジュアル

クレジット:「借りぐらしのアリエッティ」©2010 GNDHDDTW



④ 「借りぐらしのアリエッティ」背景画

クレジット:「借りぐらしのアリエッティ」©2010 GNDHDDTW



⑤ 「借りぐらしのアリエッティ」背景画

クレジット:
「借りぐらしのアリエッティ」
©2010 GNDHDDTW

⑥ ポートレート: 種田陽平



※トリミング可
キャプション「種田陽平」と
お入れ下さい

⑦ 展示イメージ イラスト: 種田陽平



※単独使用不可となります
クレジット:
©2010 GNDHDDTW ©Yohei Taneda

⑧ 展示イメージ イラスト: 種田陽平

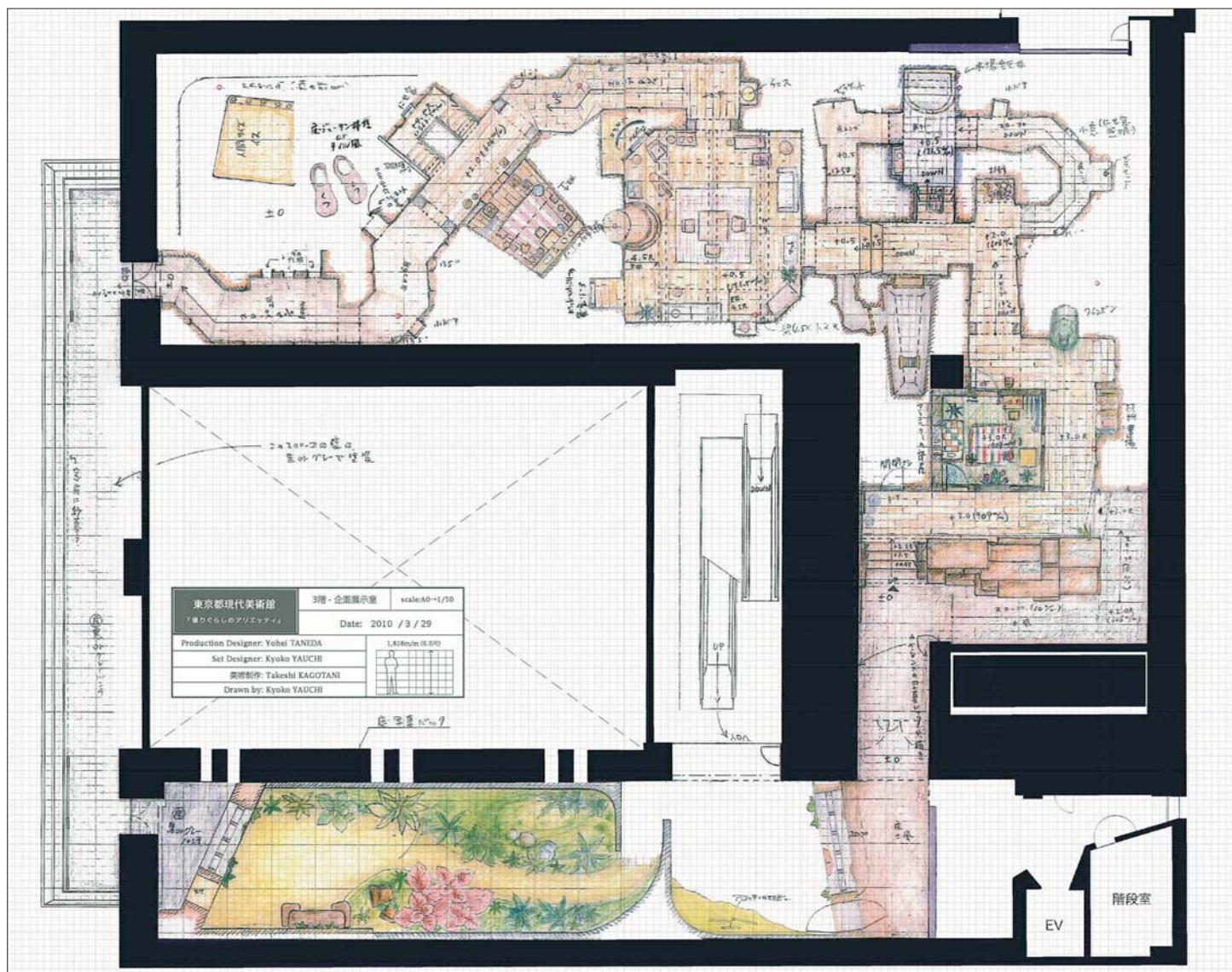


※単独使用不可となります
クレジット:
©2010 GNDHDDTW ©Yohei Taneda

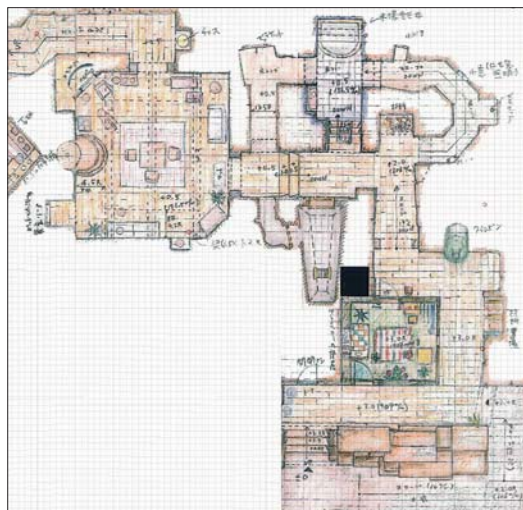


『借りぐらしのアリエッティ×種田陽平展』イメージ平面図

(東京都現代美術館 企画展示室3F)



広報用素材



⑨『借りぐらしのアリエッティ×種田陽平展』イメージ平面図(部分)

(東京都現代美術館 企画展示室3F)

※単独使用不可となります

クレジット:©2010 GNDHDDTW ©Yohei Taneda



借りぐらしのアリエッティ×種田陽平展 広報用画像申込用紙

「借りぐらしのアリエッティ×種田陽平展」 広報担当:東宝アド株式会社
FAX 03-3519-3618

■本展広報用として、9画像をご用意しております。

ご希望の際は、下記申込用紙に必要事項をご記入の上、FAXまたはEメールにてお申込下さい。

画像使用に際し、以下の点をご注意ください。

- ① 出展画像のご使用は、本展をご紹介いただける場合に限りさせていただきます。それ以外のご使用はご遠慮下さい。
- ② 出展画像は、全図でご使用ください(種田陽平ポートレート以外)。
部分使用や画像に文字や他のイメージを重ねることは出来ません。
- ③ 出展画像をご利用の際は、クレジットが必要となるものには必ずお入れください。
- ④ 本展記事をご紹介頂く場合には、可能な範囲で原稿確認をさせていただければと思います。
- ⑤ 掲載誌／紙を、広報担当:東宝アドまで御送付いただきますようお願いいたします。
- ⑥ WEB掲載の際は作品画像を72dpiで、ダウンロード出来ないように設定ください。
また、この場合にはクレジットは作品画像の右下に埋め込み、必ず御記載ください。

■媒体名:

■種別(○印をおつけください):

T V ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー ネット媒体 携帯媒体 その他

■掲載・放送予定日:

■御社名:

■ご担当者名:

■Eメールアドレス: @

■ご住所:

■お電話番号: ■FAX:

※ご記入いただきました個人情報は本展覧会の広報用写真貸出の目的のみに使用し、それ以外の用途には使用いたしません。

【画像番号】

ご希望の画像番号に ☒ をおつけください。

- ☐ ① タイトルロゴ
- ☐ ② タイトルロゴ 横
- ☐ ③ メインビジュアル
- ☐ ④ 「借りぐらしのアリエッティ」背景画 (横)
- ☐ ⑤ 「借りぐらしのアリエッティ」背景画 (縦)
- ☐ ⑥ ポートレート:種田陽平
- ☐ ⑦ 展示イメージ イラスト:種田陽平
※単独使用不可
- ☐ ⑧ 展示イメージ イラスト:種田陽平
※単独使用不可
- ☐ ⑨ 「借りぐらしのアリエッティ×種田陽平展」イメージ平面図(部分)
※単独使用不可

広報お問合せ先

「借りぐらしのアリエッティ×種田陽平展」
広報担当:東宝アド株式会社

T E L:03-3519-3623

F A X:03-3519-3618

E-MAIL:taneda-info@toho-ad.co.jp

〒100-0006

東京都千代田区有楽町1-1-3東京宝塚ビル



借りぐらしのアリエッティ
×
種田陽平展

チケット情報

■観覧料(税込)

券 種	大人・大学生	中 高 生	小 学 生
当 日 券	1,200円	900円	600円
前 売 券	1,100円	800円	500円
団 体 券	1,100円	800円	500円

*小学生未満無料

*団体料金は20名以上に適用

*本展チケットで「MOTコレクション」(常設展)もご覧いただけます。

■チケット取扱所

プレイガイド	予約・購入方法	電話番号／URL	
公式オンライン チケット	インターネット購入	www.ntv.co.jp/karigurashi/	
 ローソンチケット	電話予約	0570-000-777 オペレーター対応(10:00~20:00)	【Lコード】 39999
		0570-084-003 24時間対応	
	インターネット購入	http://l-tike.com/oc/event/karigurashi/	
	店頭での直接購入	ローソン店内にある 『Loppi』にて、Lコード等を入力の上、 店内レジにてご清算	
 チケットぴあ	電話予約	0570-02-9999	【Pコード】 前売／当日 764-173
	インターネット購入	http://pia.jp/t/karigurashi/	
	店頭での直接購入	チケットぴあ店舗、 提携コンビニエンスストア (下記欄外*参照)	
 イープラス	インターネット購入	http://eplus.jp/karigurashi/	
	店頭での直接購入	ファミリーマート『famiポート』で購入可能	

※0570 で始まる電話番号は、一部の携帯電話・PHS・IP電話受付不可

【上記プレイガイドのほか】

セブンイレブン(*）、サークルK・サンクス(*）、ファミリーマート、CNプレイガイド、
JTB・JTBトラベランド・JTB総合提携店、東京メトロ定期券売場(丸の内線東京駅を除く／大人・大学生のみ取扱)、
西武線主要駅売店(大人・大学生のみ取扱)、日テレ屋(東京駅・汐留店)、t v k チケットカウンター、
ほか主要プレイガイド、および東京都現代美術館チケットカウンター(ただし休館日は除く)

■お得なチケット

- 「三鷹の森ジブリ美術館」とのセットチケット(ローソン限定)
- 「こどものにわ」展とのセットチケット(ぴあ限定)
- 音声ガイド付チケット(イープラス限定) ※予定





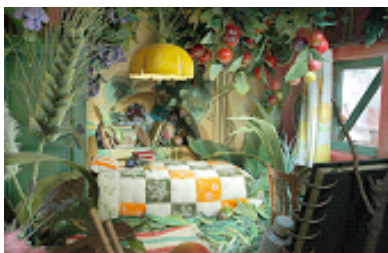
広報用素材追加

借りぐらしのアリエッティ×種田陽平展 主催者

本展広報用として、下記の3点の画像が追加となりました。

映画美術監督・種田陽平が手がけた展示の様子が具体的に伝わるものですので、ぜひご利用下さいませ。

写真A:「アリエッティの部屋」 クレジット:©2010 GNDHDDTW Production Design Yohei Taneda



写真B:「廊下」 クレジット:©2010 GNDHDDTW Production Design Yohei Taneda



写真C:「ポッドの部屋」 クレジット:©2010 GNDHDDTW Production Design Yohei Taneda



画像使用に際し、以下の点をご注意ください。

- ①出展画像のご使用は、本展をご紹介いただける場合に限りさせていただきます。それ以外の使用はご遠慮下さい。
- ②出展画像は、全図でご使用ください。部分使用や画像に文字や他のイメージを重ねることは出来ません。
- ③出展画像をご利用の際は、クレジットは必ずお入れください。
- ④本展記事をご紹介頂く場合には、可能な範囲で原稿確認をさせていただければと思います。
- ⑤掲載誌/紙を、広報担当:東宝アドまでご送付いただきますようお願いいたします。
- ⑥WEB 掲載の際は作品画像を72dpiで、ダウンロード出来ないように設定ください。

また、この場合にはクレジットは作品画像の右下に埋め込み、必ずご記載ください。

本展記事をご紹介頂く場合には、恐れ入りますが情報確認の為に構成、掲載誌(紙)、DVD、CD等をお送り下さい

<展覧会開催概要>

借りぐらしのアリエッティ×種田陽平展

2010年7月17日(土)～10月3日(日) 東京都現代美術館(江東区三好4-1-1)

公式サイト: www.ntv.co.jp/karigurashi/ 問合せ:03-5777-8600(ハローダイヤル)

広報お問合せ先:東宝アド株式会社 TEL:03-3519-3623 FAX:03-3519-3618

e-mail: taneda-info@toho-ad.co.jp